教育の4つの領域

横浜国立大学建築学科では多様な学問領域をAT（建築理論）、UE（都市環境）、SE（構造工学）、AD（建築デザイン）という緩やかに連携する4つの分野によってバランスよくカバーしています。建築学科における教育は4つの分野を横断しながら展開していきます。このなかで建築デザイン教育（AD教育）は他の3つの分野（AT・UE・SE教育）にまたがる共通領域として位置づけられ、建築学を習得する幹となっています。

建築理論 Architectural Theory

AT

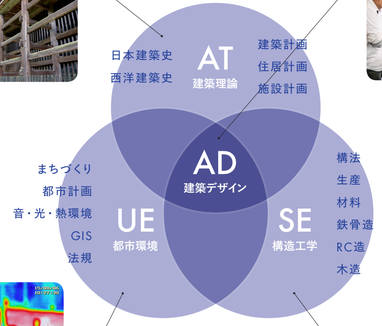
建築理論分野では、建築の歴史性や芸術性、人間生活を豊かにする建築の計画手法などを扱っています。現代社会は極めて多様で複雑な社会であり、ともすれば本質的に重要な価値を見失いがちです。次世代に受け継ぐべき価値をしっかり提示し、建築や都市空間の基本的概念を支える思想や理論を構築していきます。

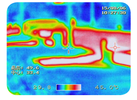
建築デザイン Architectural Design

AD

建築デザイン分野では、建築・都市のデザインを扱っています。建築をデザインするということは、工学的知識から美学・哲学などの人文社会学の知識までが要求される包括的なものです。未だ存在しない空間や建築を都市の中に構想することは、過去からつながる歴史に敬意を払い、現在の文化や社会を理解し、未来に対して責任を持つことです。

写真＝ゆかい





都市環境 Urban Environment

UE

都市環境分野では、ヒト・エネルギー・環境要素（音・光・熱・空気・水等）・生態系の複合的なつながりと建築や都市空間との関係を捉え、この関係の発展や創造を扱っています。人間生活と地球環境との均衡が崩れつつある現代において、持続可能な建築と都市のあり方を地球規模で考え実践に結びつけていきます。

構造工学 Structural Engineering

SE

構造工学分野では、建物を安全にすることを通じて人々の生命と財産を守るために、建物の材料・構造・構法を扱っています。建物はその構造種別によって、鉄骨造、鉄筋コンクリート造、木造などに分けられます。また、特殊な構造形式として競技場などの大空間構造物が挙げられます。多様化する建築デザインの要請に対して、高度な構造技術で応えていきます。

建築学科エリアマップ

「国大北」バス停のすぐそば、中央広場のまわりに建築学科の関連施設が集中しています。各種の実験施設や工房、建築図書館など、専門教育のために必要な設備が整っています。

01｜建築学科建築学棟、建築図書室
壁面緑化、屋上の膜構造、開放的なフロアなど、建築学教室の総力をあげて様々な実験的試みが行われています。

02｜構造実験棟
実際の柱や梁の耐震性を測る加力装置など、国内有数規模の実験設備を備え、最先端の教育が行われています。

03｜IUIパワープラントホール
Y-GSAの拠点には、広々としたホールが設けられ、レクチャ、シンポジウム、発表会などに活用されています。

04｜ものづくり工房・建築アトリエ
リニューアルした建築アトリエでは1年生「絵画・彫塑・基礎デザインⅠ・Ⅱ」の講義・実習が行われます。

中央図書館（全学施設）
約70万冊を蔵書。メディアホールやカフェ、ラウンジも併設し、多目的に利用することができます。

中央広場（全学施設）
キャンパスの個性である緑豊かな環境をより身近に感じ、誰でも気兼ねなく滞在できるパブリックスペースです。
写真＝Ippei Takahashi

写真＝01 新建築社写真部／02,03 ゆかい／04 Kai Nakamura

入試情報

横浜国立大学都市科学部は建築学科を含む4つの学科により構成されます。
建築学科への入学には一般入試、AO入試、編入学試験、及びYGEP（私費留学生入試）があります。
出願資格、出願方法、選抜方法、募集人員、試験日程等については、大学のホームページ等で必ず最新の学生募集要項を確認してください。

一般入試
前期日程、後期日程の両試験日程でそれぞれ入学者を募集し選抜試験を実施します。選抜は大学入試センター試験の成績と本学が行う個別学力検査を総合して行います。

編入学試験
個別学力検査（専門科目）と面接試験により実施します。

AO入試
第一次選抜、第二次選抜の二段階選抜により実施します。第一次選抜は書類審査および実技試験です。第二次選抜は第一次選抜合格者に対して面接試験を課します。なお、大学入試センター試験は課しません。

YGEP（私費留学生入試）
日本国籍を有しない外国人留学生を対象とした試験です。

建築学教室
〒240-8501
横浜市保土ケ谷区常盤台79-5
横浜国立大学都市科学部建築学科

Y-GSAオフィス
〒240-8501
横浜市保土ケ谷区常盤台79 エネルギーセンター
横浜国立大学大学院／建築都市スクール"Y-GSA"

横浜国立大学
都市科学部
建築学科

Department of Architecture and Building Science
College of Urban Sciences
Yokohama National University

www.arc-ynu.jp

横浜国立大学建築学科のヴィジョン

横浜国立大学の建築教育は、前身である横浜高等工業学校に建築学科が創設されたとき（1925年）に始まり、日本で初めてそして唯一の徹底した建築家教育が実践されたことで有名です。学科創設から四半世紀にわたり建築教育に携わった中村順平（フランス建築士D.P.L.Gの称号を持つ、芸術院会員、文化功労者）によるデザイン教育の精神は、今日まで連綿と継承されています。

建築という学問は、美学や哲学という思想、歴史や社会学、心理学という人間の行動に関する学問領域とも密接な関係があり、人間の身体と関係する空間のデザイン、都市や環境といった広がりのある空間のマネジメント、音や熱や光といった現象のサイエンス、物質を地球上に建ちあげるというエンジニアリングにいたるまで、広範な学問領域をもっています。つまり、建築とは、私たちが生きるこの世界、そして文化そのものを対象とする学問だといえるのです。

横浜国立大学建築学科は、こうした広範な学問領域に関心を持ち、既存の価値体系にとらわれない自由な発想と豊かな想像力によって建築や都市をつくることに関心のある人を求めています。

横浜国立大学建築学教室

建築とは

建築を考えるということは、人間の生を考えることだ。人間は決して裸では生きず、環境と共に生き、時空間と共に生きる。住まいや建築、街、故郷といった、環境をつくりながら生きる。また人間は、物語を作りながら生きる。建築・都市とは、人間が作る数々の物語の中でも、最大の物語の一つだといえる。建築は、人間の生きることをめぐる想像力が形になったものだ。

また建築は、確かに人間的で、独創的なものだけれど、人間を超えるところがある。例えばそれは、一人でつくるものではない。建築は、建築主、施工者、設計者、様々な人間が知恵と情熱を集結させて、作り上げるものだ。一人ひとりが自分の「思い」をもって、個人の独創がぶつかり合って、建築は出来上がる。そうやって出来た建築は、人間の価値観を表すが、同時にそれは人間の何倍もの長い生命を持って、地上に残り続ける。建築には人間を超越する大きさがあり、その大きさゆえに人間はそれを愛する。

西沢立衛
建築家・都市科学部教授

建築学科で学ぶこと

AT・UE・SEの各分野の建築専門教育は、授業や演習が各学年の春学期・秋学期に行われるADの課題とできるだけ連動するように組み立てられており、立体的な学習を促しレベルアップが図れるように配慮されています。

建築専門教育は1年次から始まりますが、そのなかでもデザインスタジオ（AD教育）は中核を成すものとして、第一線で活躍する建築実務家が多数加わり、少人数のスタジオ制による密度の高い指導が行われています。このデザインスタジオは3年春学期まで必修科目、3年秋学期から選択科目として徐々に規模が大きく、用途が複雑な建築や地域を課題として扱うようになります。

	1年		2年		3年		4年 研究室に所属	
AT 建築理論	●建築学概論・演習		●西洋建築史 ●居住空間の計画	●日本建築史 ●建築史演習 ●人間生活と建築計画	●近代建築史 ●公共施設の計画	●建築理論演習	●建築芸術史論	●卒業研究（論文または設計）
UE 都市環境	●建築学概論・演習		●建築環境計画 ●フィールドワーク論・演習 ●GISによる地域解析概論	●都市と都市計画 ●都市環境リスク共生論 ●建築熱・空気環境 ●建築・都市環境工学演習 ●ランドスケープ論	●都市計画とまちづくり ●都市環境設備計画 ●建築音・光環境 ●設備計画I/II	●地域環境計画演習 ●設備計画III/IV ●建築法規		●卒業研究（論文または設計）
SE 構造工学	●建築学概論・演習	●建築構法 ●建築構造解析I・演習	●建築構造解析II・演習 ●建築構造計画と構造デザイン	●鉄筋コンクリート構造・演習	●鉄骨構造・演習 ●建築材料 ●建築材料・構造実験	●建築構造・構法設計演習 ●建築生産	●建築構造解析III・演習	●卒業研究（論文または設計）
AD 建築デザイン	●建築学概論・演習 ●絵画・彫塑・基礎デザイン	身体と空間のデザイン	デザインスタジオI	デザインスタジオII	デザインスタジオIII	建築デザインスタジオI ●建築と都市のメディア・デザイン	建築デザインスタジオII ●建築デザイン論	卒業設計

仮設構造物の組み立て演習（1年建築学概論・演習）

京都・奈良などの寺社仏閣見学（2年建築史演習）

都市と建築のリサーチ（3年建築理論演習）

まちなかのフィールドワーク（3年地域環境計画演習）

デザインスタジオの様子（4年建築デザインスタジオII）

卒業設計のプレゼンテーション（4年） 写真=ゆかい

建築学科で見つける「進路」と「つながり」

建築学科には9つの研究室が設けられており、学部4年生になると各研究室に配属され、卒業研究（卒業論文や卒業設計）にとりくみます。建築学科全体のOBOG会（水煙会）に加えて、各研究室はそれぞれ独自に卒業生とのネットワークをつくり、在学生と卒業生とのつながりを支援しています。

学びを通じて得る未来の自分

'02 年卒

田尾玄秀
桜建築事務所、構造エンジニア

2002 横浜国立大学建設学科建築学コース卒業
2004-2013 株式会社オーク構造設計勤務
2012 第23回JSCA賞新人賞受賞_金沢海みらい図書館（建築設計/シーラカンスK&H）
2013 桜建築事務所設立
2014-2016 武蔵野美術大学非常勤講師
2017 第20回木材活用コンクール最優秀賞受賞_東急池上線戸越銀座駅（共同受賞）

卒業後、建築や都市の空間を支える骨組の設計が専門の構造エンジニアとして働いています。都市の様々な空間の骨格を自分で考え、それが実際に地面から立ち上がる現場に立ち会う、やりがいのある仕事です。学生時代は、横浜の街全体が、日韓共同開催のワールドカップに向けて、ダイナミックに更新されていくような空気を感じていました。授業では、地下鉄みなとみらい線の建設現場や、横浜港大さん橋に入港した国際航路の大型客船内を見学したことが楽しい経験でした。他にも、より大きなスケールや多様な広がりを持つ都市の空間を肌で感じ、今の自分の仕事に繋がる体験ができたと思います。大さん橋の国際客船ターミナルの建設現場の事務所でのアルバイトは、卒業後の進路を決めるきっかけでした。横浜国大は、キャンパスの外にも都市や建築の空間を体で学べる機会が沢山あり、とても恵まれた環境だと思います。

卒業生を貫く社会性と批評性

'92 年卒

田井幹夫
初代/現在円錐会会長、建築家

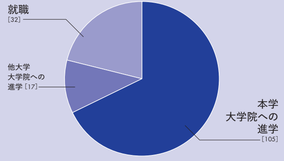
1992 横浜国立大学建設学科建築学コース卒業
1993 ベルラーヘ・インスティテュート・アムステルダム
2000- アーキテクトカフェ設立
2005- 横浜国立大学非常勤講師
2008 山梨県建築文化奨励賞住宅部門受賞
2009 横浜国立大学主催「横浜国立大学国大構コンセプトデザインコンペ」最優秀賞受賞

2017年3月、設計系OBOG会「円錐会」が企画した「初出展01」は、出展者である30組の建築家を始め、現役学生から60代の卒業生に至るまで、参加総勢150人を超え大成功に終わりました。総合大学での設計系OBOG会は全国的にも珍しく、多くの建築家を輩出している横国建築学科だからこそ可能な会です。年2回の定期イベントに加え、円錐会ホームページ「UNICORN SUPPORT」も充実しています。
自分自身を建築家に育ててくれた母校に非常勤講師として12年関わっていることも大変嬉しい事です。横国建築の精神は「社会性と批評性」です。20年以上前から一貫した実践教育を行っていることが、活躍するOBOGを社会に多く輩出することにつながっているといえるでしょう。

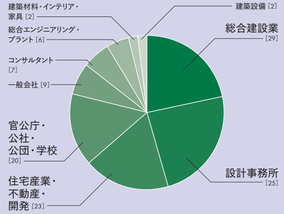
卒業後の進路は?

2014～2016年度の3箇年度分の卒業生・修了生進路アンケート回答を集計したものです。

学部卒業後の進路



大学院修了後の主な就職先



金沢21世紀美術館
設計：SANAA（妹島和世+西沢立衛）
2006年日本建築学会賞（作品）
写真=SANAA

洗足の連続住棟　設計：北山恒
2010年日本建築学会賞（作品）
写真=阿野太一

パッシブタウン第3期街区J棟／K棟（富山県黒部市）
設計：森みわ
リノベーションによるパッシブハウス